

生野きらきら子ども食堂

毎日新聞 2020.12.19

12月19日(土)

おにぎりと豚汁 テイクアウト

生野小学校の校長先生に相談に行き、校庭で「炊き出し」の提案を頂きました。生野小学校おやじの会と協力して、コロナバージョン「生野きらきら子ども食堂」を開催。



▲さっそく野菜を寄付して頂きました

コロナ禍中断

下関「生野きらきら子ども食堂」炊き出し形式で復活



きょうおにぎり と豚汁提供

新型コロナウイルスの感染拡大により、春から中断していた下関市の「生野きらきら子ども食堂」が、炊き出し形式で復活する。19日正午から、市立生野小のグラウンドで塩梅にぎりとおにぎり約50人前を用意し、訪れた人に無償で持ち帰ってもらう。午後1時までに、無くなり次第終了する。
【佐藤雄正】

生野きらきら子ども食堂は、2016年7月から「高齢社会をよくなる下関女性の会」の田中隆子代表が中心となって始めた。「支援を必要としている子どもたちに届いてほしい」との思いで毎月2回、同市生野町の集会所でボランティアが揃ってカレーや煮物など栄養豊富な料理を無償で振る舞い、毎回約40人の親子が食卓を囲んでいた。集会所が狭く、ボランティアには高齢者が多いことから、11月以降も毎月一回、同小で炊き出しを予定する。問い合わせは田中代表の093-849-4900

多いことから、感染危険を避けるために、年々以降は開催回数を減らされてきた。しかし、感染をしながら支援を続けようとする思いで、同や住居有友、一生おやじの会が協力して今回、生野小グラウンドで炊き出し形式で復活することになった。持ち帰りのみならず、プラスチックごみややさしいように握り、おにぎりは紙で包み、既製の容器に入れて、中には紙を貼って、中に呼吸を待たせる。中代表は「環境問題を含め、子どもたちのために自分たちができることを実践していきたい」と話す。今後は、2021年1月以降も毎月一回、同小で炊き出しを予定する。問い合わせは田中代表の093-849-4900



▼クリスマスプレゼントも
たくさんの寄付を頂きました



▶おにぎりは環境にやさしい紙製品で包みました



何が入っているかな～??

